

「研究」

# 大坪川流域林道に分布する下部白亜系日奈久層（アプチアン）から産出した *Epicheloniceras* について\*

村上 浩二\*\*

## はじめに

八代地方日奈久帯の下部白亜系日奈久層から産出した *Epicheloniceras* について報告する。すでに、村上（1996）において、*Epicheloniceras* が日奈久層から産出することは報告され、日奈久層の下部層がアプチアンであることは知られていた。この個体は球磨川河畔の採石場や川口北方の露頭の連続性が不明瞭なところからの産出であった。

今回、熊本県八代市日奈久地区東方、大坪川流

域林道の連続した地層から他のアンモナイトとともに新たに *Epicheloniceras* が産出し、層序対比に有効な情報が得られた。

## 大坪川流域林道のアンモナイト

大坪川流域林道には泥岩及びその上位に重なる砂岩泥岩の互層からなる連続露頭が210 mに渡って観察される。今回、このセクションの4層準からアンモナイト化石が産出した（図1）。

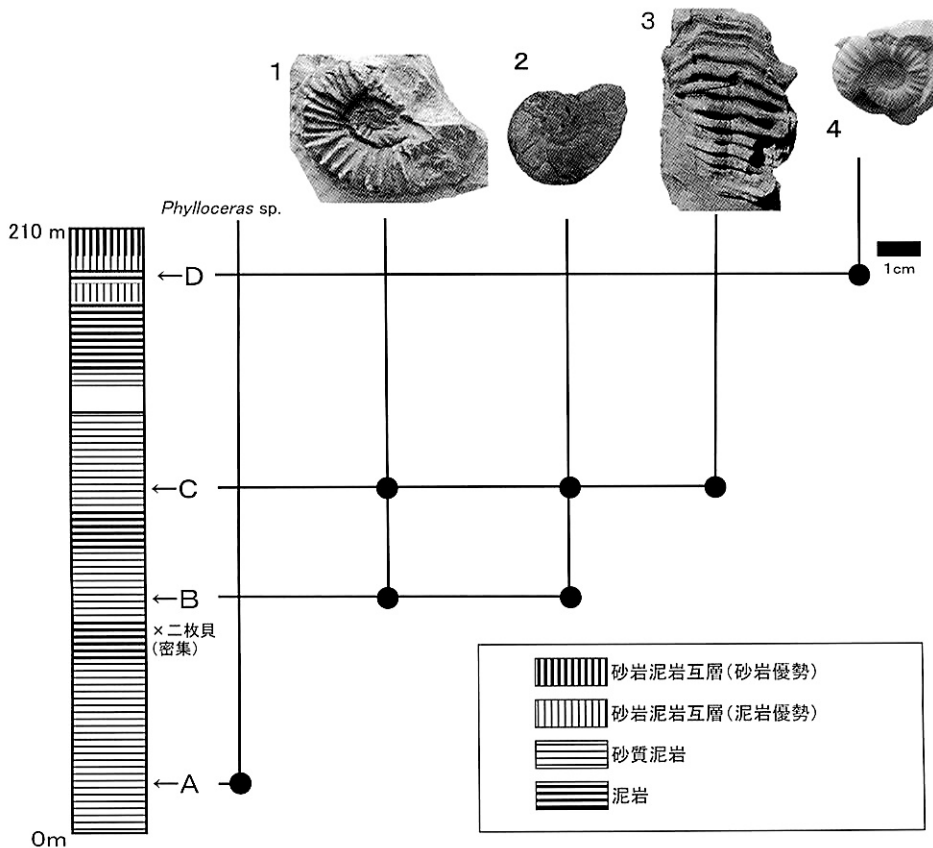


図1 大坪川流域林道セクションの柱状図と主なアンモナイト化石の産出層準。1, *Deshayesites* sp.; 2, *Pseudohaploceras* sp.; 3, *Epicheloniceras* sp.; 4, *Procheloniceras* sp.

2012年2月17日受付, 2012年3月10日受理  
\*平成23年度熊本地学会講演会(熊本大学)にて講演  
\*\*熊本市立錦ヶ丘中学校

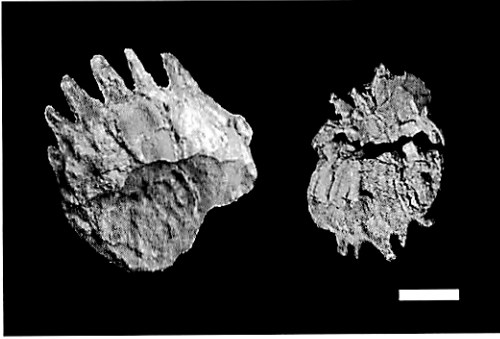


図2 日奈久層から産出した *Epicheloniceras*. 左右ともに潰された状態で保存が良くはないが、とげを持つ様子がわかる。産地は左が 6082, 右が 4242。産地は村上 (1996) を参照。スケールバーは 1 cm。

これらの化石は、暗灰色シルト質泥岩に特徴的に含まれる。この泥岩にはほとんど層理が発達せず、ウニ化石を普通に伴い、まれに二枚貝化石も含まれる。二枚貝化石は、そのほとんどが合弁で産出する。このような観察結果から、波浪の影響の少ない堆積場が推定される。

日奈久層産出の *Epicheloniceras* は図 1 に見られるように、腹部の強い肋が特徴であり、復元した生体はかなりの大きさがある。臍部から腹部にかけてのところに特徴的なとげが発達している。また、球磨川沿いの採石場でも産出し、強弱の肋やとげが識別できる (図 2)。決して保存がよいものではないが、*Epicheloniceras* の特徴を明瞭に示している。

#### 日奈久層の年代

Casey (1961a) はイングランド南方セント地方の下部白亜紀 Lower Greensand 層より *Cheloniceras* (*Epicheloniceras*) を記載し、アプチアン上部の下部を特徴付けるものとしている。

*Epicheloniceras* はフランスの模式地およびメキシコにおけるアプチアン中部の示帯化石種とされる (Ropolo et al., 2008, Barragan et al., 2005)。従って、本属と *Deshayesites*, *Pseudohaploceras* を含む日奈久層下部層は、アプチアンの標準地域

とされるフランスやメキシコの同時代の堆積物に比較でき、時代はアプチアン中部から下部と考えられる。

国内においては、かつて Obata (1969) が宮古層群平井賀層下部 (アプチアン) から *Eodouvilleiceras* として記載したものは、*Epicheloniceras* とみなされること (Vincent et al., 2010)、また、銚子層群西明浦層 (アプチアン) からもその産出記録がある (Obata and Matsukawa, 2007) ことから、これらの堆積物と対比することができる。

#### 文 献

- Barragán-Manzo, R. and Méndez-Franco, A. L., 2005: Towards a standard ammonite zonation for the Aptian (Lower Cretaceous) of northern Mexico: *Revista Mexicana de Ciencias Geológicas* 22(1), 39-47.
- Casey, R., 1961a: The stratigraphical palaeontology of the Lower Greensand.- *Palaeontology*, London, vol. 3, pt. 4, pp. 487-621, pls. 77-84.
- 村上浩二, 1996: 八代-日奈久地域の下部白亜系 (八竜山・日奈久層) の再検討—特にアンモナイトに基づく化石層序—. *熊本地学会誌*, No. 113, pp. 2-9.
- Obata, I., 1969: Lower Cretaceous Ammonites from the Miyako Group. Part 3. Some *Douvilleiceratids* from the Miyako Group, *Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan*, vol. 76, pp. 165-176.
- Obata, I. and Matsukawa, M., 2007: Barremian-Aptian (Early Cretaceous) Ammonoids from the Choshi Group, Honshu (Japan). *Cretaceous Research* vol. 28, pp. 363-391.
- Ropolo, P., Conte, G., Moullade, M., Tronchetti, G., and Gonnet, T. R., 2008: The *Douvilleiceratidae* (Ammonoidea) of the Lower Aptian historical stratotype area at Cassis-La Bédoule (SE France).- *Carnets de Géologie - Notebooks on Geology*, Brest, *Memoir* 2008, 60 pp., 24 pls.
- Vincent, B., van Buchem, F. S. P., Bulot, L. G., Immenhauser, A. Caron, M., Baghbani, D., and Huc, A. Y., 2010: Carbon-isotope stratigraphy, biostratigraphy and organic matter distribution in the Aptian - Lower Albian successions of southwest Iran (Dariyan and Kazhdumi formations) *GeoArabia Special Publication* 4, v. 1, pp. 139-197.